

# KiKiの広場

2015年 2月 1日

cafe NO.52  
KiKi



まだまだ寒い日は続きそうですが、2月は節分・立春と、春の訪れを感じる季節でもあります。我が家の梅もやっと咲き始めました。福寿草のつぼみやメジロなどに会うと、ぽっと温かい気持ちになります。冷たい風が吹く中でも、小さな春を見つける楽しさを、しっかり味わってきたいと思います。

## 2月の予定

10日(火)	休館日
毎日曜日	定休日



## 「今月のケーキ」・・・「チョコレートケーキ」 350

柔らかいココアスポンジに、カカオ分 62%の甘さを抑えたチョコレートクリームを重ね、アクセントのくるみとチョコレートクランチの食感の、絶妙なバランスが楽しめる本格派チョコレートケーキです。



## 今月のお気に入り・・・「比べてみたくなる絵本」

～「かしこいビル・おいこうなビル」「かにおかし・さるとかに」「ピロードうさぎ・ピロードのうさぎ」「こねこのぴっち」など～



同じお話でも、訳者・再話者・画家・出版社によって全く違った感じの本になります。

ハンス・フィッシャーの「こねこのぴっち」にいたっては、石井桃子さんの訳は同じですが

大きさと形（縦長と横長）そしてなんと、見開きの進行方向まで逆になるというすごい

ことになっています。「ほうっ、こうなったか」って感じですが、それぞれ良さがあり、『ぴっち』の愛らしさは変わりません。また、訳者が違う「かしこいビル」と「おいこうなビル」は、出版社も違い表紙や構成、もちろん表現にも違いが見られます。日本の昔話もそうですが、いろいろな絵本を見比べてみると、言葉と絵と構成がとても大切なのがわかります。たくさんの中から「これっ！」という自分のお気に入りが見つかる、いいなあと思います。



## 今月の本棚・・・「鬼の絵本」

～「鬼が出た」「おにはうち！」「鬼のかいぎ」「鬼ぞろぞろ」「鬼の首引き」「おによいつよいおれまーい」などなど～



「たくさんのふしぎ」の「鬼が出た」は、鬼にまつわるお話がいっぱいで、鬼の解説書のような本です。誰もが楽しんだ「鬼ごっこ」は、江戸時代の子どもの遊び「子をとろ子とろ」が由来だっ

たり、天上の世界にも鬼が住んでいて、七夕さまの彦星のお父さんが実は鬼だったり

（「天稚彦草紙（あめわかひこそうし）」より）と、いろいろな「へえ～」に出会えます。



## ほっとブレイク

1月の終わりにYABの「Jちゃん山口」という番組の取材が、KiKiでありました。絵本の魅力について知りたいとのことで、いろいろお話させていただきました。年末には私たちの仲間の『やまぐち読書推進グループ「本の森」』の栗山代表が開いている勉強会にも取材に行かれました。

取材当日、普段は静かな土曜日のはずでしたが、どうしたことか（^.^）お客さまが次々と来られ、いつもの将棋の指導者の方たちも、「今日はいったい何ごとですか？」と言われるくらい店内がいっぱいになりました。小学生の姉妹とお父さん、孫を連れた三世代の家族のみなさん、読みがたりサークルの女性の方などなど、子どもから大人まで絵本を手にとって読まれていたので、記者の方は早速お話を聞かれました。

40代の男性の記者の方ですが、最近絵本との出会いがあって、子どものものと思っていた絵本が大人にとっても面白いということに気づき、もっと知りたいと思われたそうです。

最後に言われたのは、いろいろな方からお話を聞いたが、みなさん絵本を語るととにかく「熱い」と。そしてそれを聞くのが、とても楽しかったと。嬉しい言葉です。ご協力いただいたみなさま、ありがとうございました。

